

1 報告事項

○幼保連携型認定こども園ほんべつの利用定員の変更について

・令和4年4月1日から、利用定員の変更を予定しています。資料は事前に送付しています。

利用定員の変更

	1号			2号			3号		
変更前	25人			120人					
	25人			70人			50人		
	3歳児	4歳児	5歳児	3歳児	4歳児	5歳児	0歳児	1歳児	2歳児
	14人	5人	6人	23人	23人	24人	10人	10人	30人
変更後	25人			110人					
	25人			70人			40人		
	3歳児	4歳児	5歳児	3歳児	4歳児	5歳児	0歳児	1歳児	2歳児
	14人	5人	6人	23人	23人	24人	10人	10人	20人

※ 変更の理由

近年、出生数の減少が続いており、2歳児の入園が大幅に減少しているため、3号認定(1・2歳)の利用定員を減員変更する

2 協議事項

○出産祝い金について

各委員、団体からの意見を報告いただき、集約しました(別紙)

現金の方が良いという意見が多数のため、町として木製知育玩具の贈呈を廃止し、「出産祝い金」として現金を贈呈する施策を執り進めます。

金額については基本の額ないし第2子以降を増額しては、とのご意見もありましたが、今までの木製知育玩具もあくまでお子さまが生まれたことに対するお祝いであり、少子化対策や多子世帯の負担軽減などの子育て支援は他の施策で多面的・総体的に行っていることを踏まえ、本施策としては一律10万円として進めたいと思います。

今後、少子化対策、出産奨励などの施策を進めることとなった際にはこのような意見があることを踏まえ、他課及び他事業と調整・連携をしながら企画・立案をする必要があると考えます。

令和3年度 第2回子ども子育て会議 議題「出産祝い金について」意見集約

○集約数 10件 全て「良いと思う」(8)「おおむね良い」(2)の回答

○意見

≪現金の方が良い≫

- ・現金の方が自由に使えてよい
- ・これまでも乳幼児健診アンケートなどで他自治体のように祝い金を現金支給してほしいという要望はあった
- ・今回の話し合いで現金の方がよいという意見が多かったため良いと思う
- ・木製知育玩具のプレゼントは、子どもへの木のぬくもりのあるおもちゃという意味では魅力的で良いとの意見もあったが、現状の積み木のみプレゼントは兄弟で同じものが重なってしまう事、また管内でも出産祝い金を渡している町村が多い事等を考えると、記念品ではなく出産祝い金とした方が喜ばれるのではないか
- ・記念品ではなく、出産祝い金に変更し、町として新しい命へのお祝いをするのはとても良いと思う
- ・祝い金は現金で、願わくば本別町長から手渡ししてはいかがでしょうか

≪金額について≫

- ・3人目以上の出産には20万円以上
- ・今後も人口減少、少子化を(止める)目的とした改善策という部分も含めて、2人目、3人目以降増額、10万円自体を増額等も検討していければよいと思う
- ・たくさん産むほど金額が多くなるようなものは、「多産=よいこと」と町が推奨しているような印象もあり、現在不妊治療中の人や子供を産まない選択をする人、高齢者や未婚の人などさまざまな状況にある町民すべての賛同を得られるのか少し心配であるため、他町のような出生順位による金額変更はあまり賛成できない

≪目標・目的を明確に≫

- ・目標を立てるとよいと思う「年間出生率を40人以上」
- ・記念品を贈呈することになった経緯(目的)等を再確認し、誰もが納得できる意義を説明できるようにしていく必要があるのではないか  
→木製知育玩具とした背景(木材の町という視点での郷土愛?など)
- ・今後も趣旨、目的を明確に(条例や要綱などで)しなければ、出産祝い金としても何のためにお金を贈呈するのか、事業の評価なども難しくなってしまうのではないか
- ・誕生をお祝いする気持ちとして10万円贈呈することは、対象となる方にとっては間違いなく嬉しいと思う。ただ、「他町と比べて金額が少ない」「何人も産んでいるのに何も無い」などの感想がときおり聞かれ、子供をもつことは本来こうしたこととは無関係であるはずなのに、経済的な面で比較されることは残念な気がする

《その他》

- ・町では敬老祝い金も贈呈しているが、町として限られた財源を有効活用することも考慮すると敬老祝い金との兼ね合いも考えて協議してもよいのではないか  
→例えば、敬老祝い金を縮小・廃止して次世代の子どもたちに祝い金を贈呈する等
- ・「記念品」と考えると、木製知育玩具は壊れることもなく長く使用でき、良いものだと思う。子供が大きくなり、親となり、同じ積み木で遊ぶ。そのようになればうれしい事ですが、今の時代は物があふれているので、ひとつの物を長く親子代々で使う時代では無いのかなとも感じる。さみしいことですが
- ・転出などで祝い金をもらってすぐになくなる人も想定され、長い目で子育て支援を考えると、保育や就学後にかかる経費を無料または補助にするなどの方法も子供が安心して保育、学習環境を等しく受けられるのではないかと思う
- ・子どもを育てやすい町にしたいですね